

# 環境データ集 2017

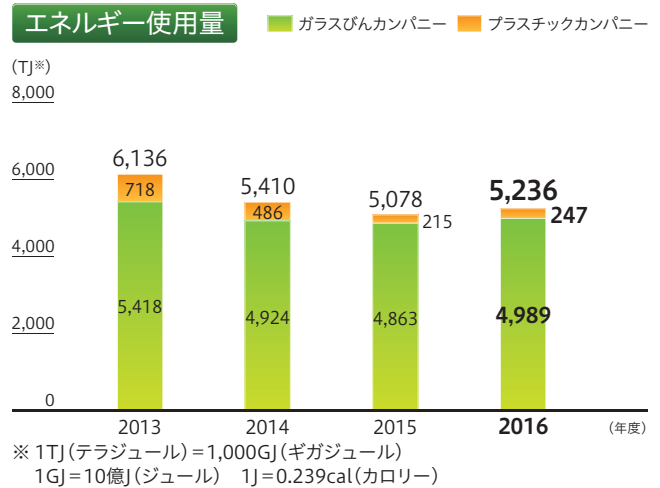
## 省エネルギーの主な取り組み

ガラスびんカンパニー 3工場・プラスチックカンパニー 2工場

ガラスびんカンパニーの2016年度のエネルギー使用量は前年度と比較して2.6%の増加、プラスチックカンパニーの2016年度のエネルギー使用量は前年度と比較して14.9%の増加となりました。

これはガラスびんカンパニーで溶解炉の老朽化が進んだことと、プラスチックカンパニーでDGB(ディーブグリップボトル)の生産を開始したことが影響しています。溶解炉はこれから順次更新予定、また高効率機器の導入や圧縮空気漏れの調査および修理など日々の取り組みによりエネルギー使用量削減を目指します。

注)工場内のフォークリフトの燃料など、生産に直結しないエネルギーも算出範囲に含まれています。また、発熱量の係数を省エネルギー法に基づいて計算しています。

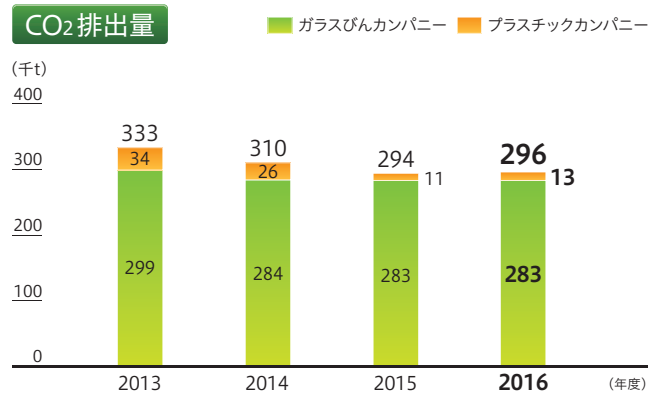


## CO<sub>2</sub>排出量削減の取り組み

ガラスびんカンパニー 3工場・プラスチックカンパニー 2工場

ガラスびんカンパニーの2016年度のCO<sub>2</sub>排出量は、前年度と比較して±0.0%で増減なし、プラスチックカンパニーの2016年度のCO<sub>2</sub>排出量は前年度と比較して18.2%の増加となりました。

プラスチックカンパニーのCO<sub>2</sub>排出量が増加したのは、DGB(ディーブグリップボトル)の生産開始によるエネルギー増加が主な要因です。

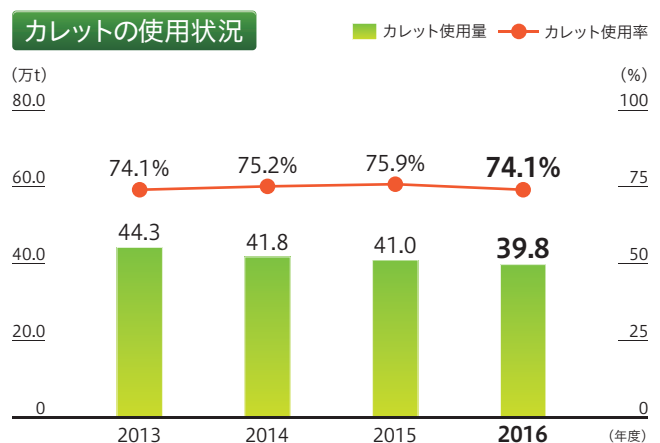


## カレットの使用状況

ガラスびんカンパニー 3工場

2016年度の当社におけるカレット使用量の合計は、39.8万tで、ガラス溶融量に占めるカレットの割合は74.1%でした。当社では、工場で発生したカレットはすべて、原料として再使用するとともに、市中から回収するカレットの確保に取り組んでおり、カレット使用量の数値はそれらを合計したものです。

さらなるカレットの確保のために自治体やカレット業者からの情報収集を強化しています。



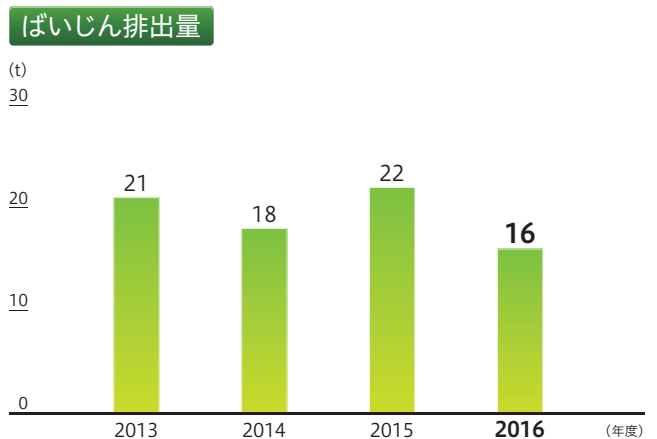
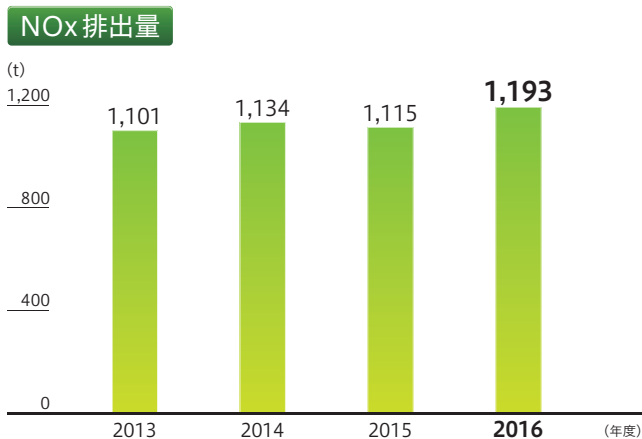
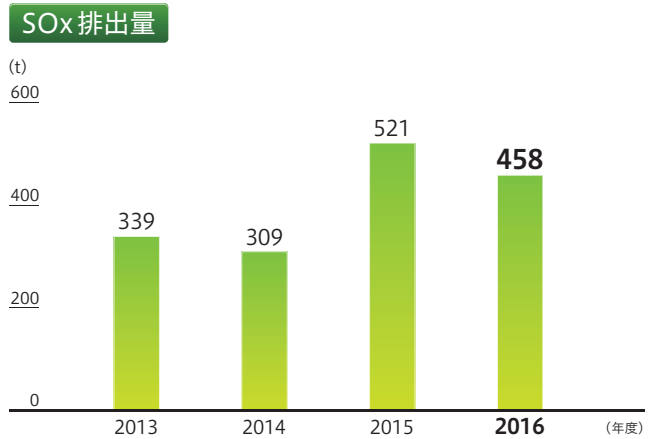
# 環境データ集 2017

## 大気汚染防止の取り組み

ガラスびんカンパニー 3工場

2016年度のSOx排出量は458t、NOx排出量は1,193t、ばいじん排出量は16tでした。

SOx、ばいじんは脱硫設備や電気集塵機およびバグフィルターなどの排ガス処理設備の維持管理によって、排出レベルを抑えています。また2015年度末に埼玉工場1号炉にも脱硫設備とバグフィルターを導入しました。NOxは大阪府立大学と低減技術を共同開発中で、実機導入を目指して、継続して取り組んでいます。

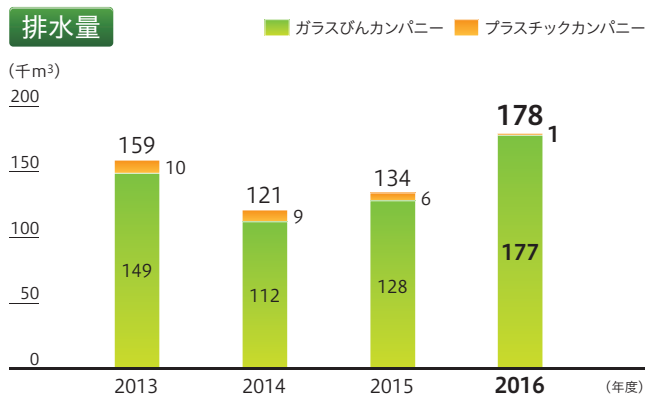
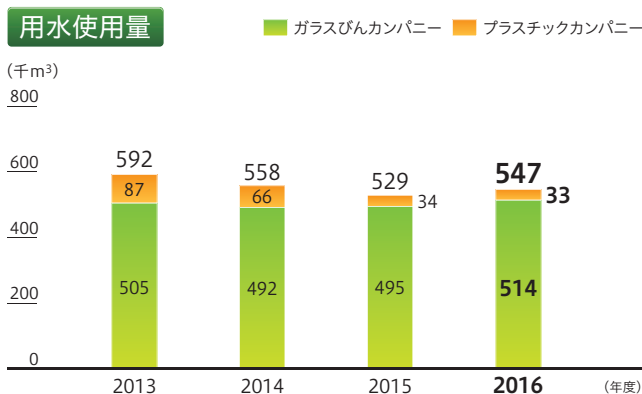


## 用水・排水削減の取り組み

ガラスびんカンパニー 3工場・プラスチックカンパニー 2工場

2016年度の、ガラスびんカンパニーの用水使用量は514千m<sup>3</sup>、排水量は177千m<sup>3</sup>で前年度比はそれぞれ3.8%増、38.3%増となりました。

2016年度の、プラスチックカンパニーの用水使用量は33千m<sup>3</sup>、排水量は1千m<sup>3</sup>で、前年度比はそれぞれ2.9%減、83.3%減となりました。



# 環境データ集 2017

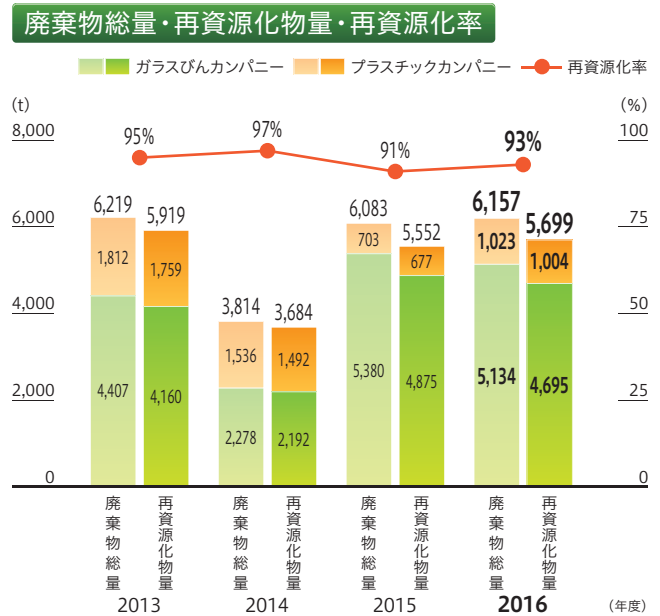
## 廃棄物削減の取り組み

ガラスびんカンパニー 3工場・プラスチックカンパニー 2工場

ガラスびんカンパニーの2016年度の廃棄物総量は5,138t、再資源化物量は4,695tで、廃棄物総量の前年度比は4.6%減となりました。溶解炉の補修工事を行ったため前年よりは減少したものの、多い状態が続いています。再資源化向上のため、再資源化可能な業者選定、工場内に持ち込んだごみの持ち帰り、エコキャップ運動への参加、家庭からの空きびん回収促進などの取り組みを継続していきます。

プラスチックカンパニーの2016年度の廃棄物総量は1,023t、再資源化物量は1,004tで、廃棄物総量の前年度比は45.5%増となりました。

その結果、ガラスびんカンパニーとプラスチックカンパニーをあわせた再資源化率は93%となり、前年度比2%増となりました。



## PRTR※1管理状況

PRTR対象物質については、適切な管理と届出を徹底するとともに、環境負荷の低減に努めています。

※1 PRTRとは(化学物質排出移動量届出制度)(Pollutant Release and Transfer Register)のことです。

注)届出の対象は、特定化学物質では取扱量が0.5t/年以上、第一種化学物質では取扱量が1t/年以上となっています。集計量は、日本山村硝子各工場の合計値となっています。

### ▼ 2016年度のPRTR対象物質集計結果

対象化学物質名	取扱量	排出量 (大気、水域)	移動量 (廃棄物、下水道)
コバルト及びその化合物	1.7	0.0	0.0
有機スズ化合物	22.9	4.5	0.0
セレン及びその化合物	3.7	0.0	0.0
鉛及びその化合物	1.9	0.0	0.1
ニッケル及びその化合物	2.4	0.0	0.0
ほう素及びその化合物	19.9	0.0	0.6
マンガン及びその化合物	41.3	0.0	0.0
クロム及びその化合物	117.0	0.0	0.0
アンチモン及びその化合物	0.0	0.0	0.0

## PCB※2管理状況

PCBについては、適切な保管管理を徹底しています。保管中のPCB含有機器については認定処理施設において順次適正な処理の手続きを進めています。PCB特措法改正に対応すべく、2016年度は社内で掘り起こし調査を行い保管台数が増加しました。今後の調査・分析によりさらに増える可能性もありますが、適正に処理を進めていきます。

※2 PCBとはポリ塩化ビフェニル(Poly Chlorinated Biphenyl)のことです。高圧トランス、高圧コンデンサ、安定器の絶縁油などに使用されたものです。

### ▼ 2016年度のPCB対象物質集計結果

	保管中	使用中
コンデンサ	2	0
照明用安定器	193	0
トランス	3	1
開閉器	0	0
その他	2	0